

日本共産党青梅市議団

青梅市議会議員

みねざき 拓実

くらしの相談、法律相談(要予約)
は、お気軽にどうぞ！

連絡先 070-5590-6081

市議会報告 2024年8・9月

市民の健康増進を！ 目標にふさわしい取組みに！

健康寿命日本一のまち

青梅市は、「生涯現役で過ごす健康寿命日本一のまち」を目指しています。健康寿命とは健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間とされており、WHOが提唱して以来、寿命を延ばすだけでなく、いかに健康に生活できる期間を延ばすかに関心が高まっています。市は今年度「健康づくり推進計画」を策定しますので、さまざまな健康推進の施策を充実させなければなりません。

まずは健康診査の受診

自分の健康に関心を持つきっかけは様々ですが、健康診査を受けた時が多いのではないのでしょうか。自分は健康だと思っけていても、健康診査を受けたら、基準値より数値が高くてビックリすることがあります。人は年齢を重ねると健康リスクが高まり、生活習慣病などになりやすくなります。自分の体の状態をよく把握し、それに適した対策をしなければなりません。そのためにも健康診査の受診率向上は必須です。最新の特定健診の受診率は約50%です。

生活習慣病とは

食事・運動・休養・喫煙・飲酒などの生活習慣が、その発症や進行に関与する病気のことを指します。生活習慣病には、糖尿病、脂質異常症、高血圧、がん、脳卒中、心臓病のような病気があり、健康に大きく影響するものが多くあります。

さらに特定健診の拡充

40歳以上の国民健康保険の加入者は特定健康診査（特定健診）、後期高齢者医療制度の加入者は健康診査を年1回受けることができます。特定健診が40歳以上なのは国民健康保険の制度で決まっています。そのため多くの区市町村では、自治体独自の健康診査を実施しており、対象年齢など様々ですが、20代や30代で受けられる健康診査を実施しています。ところが青梅市には、このような市独自の健康診査はありません。若年層でも健康リスクを抱えている人はいますので、少なくとも30歳から39歳まで無料で受けられる健康診査が必要です。

市の回答は

「若年層に対する健康診査の重要性は認識しているが、生活習慣病のリスクは40歳を過ぎると顕著になるので、リスクの高い年代に資源を集中して投入し、早期発見、早期対応に努めることが重要と考える」というものでした。日本一にふさわしい取組みをすべきです。





(特定)健康診査に軽度認知障害の検査の追加を

(特定)健康診査では市独自の検査項目として、痛風のリスクとなる尿酸を測る血液検査と、希望者に大腸がん検診を実施しています。そして私が市に特にやってほしいことは、認知症になる前段階の軽度認知障害、これをMCIと言いますが、MCIかどうか分かる「MCIスクリーニング検査」を(特定)健康診査に追加することです。これは血液検査で簡単に調べることが出来ます。認知症の人は2025年には約700万人に上ると見込まれており、これは65歳以上の5人に1人ということになります。軽度認知障害の状態を放置しておくと、4～5年で約半数の人が認知症に進行するというデータがあります。それゆえ軽度認知障害を早期に発

見できれば生活習慣を改善しようというきっかけになりますし、適切に治療すれば認知症にならずに済んだり、なっても進行を遅らせたりすることが出来ます。高齢になっても生き生きと生活するためには認知症の予防が重要になっています。

市の回答は

「検査の実施方法、検査後のフォロー体制など課題が多い」ということでしたが重要なことなので今後も求めていきます。



新市民ホール等の建設を早期に！

大型児童センターの議論を

大型児童センターとは、他自治体によくある普通の児童館に、プラスアルファの機能を持たせた施設です。これまで市では、どのような大型児童センターにすべきかという議論がほとんど行われてきませんでした。どのような機能を入れるか、多くの子どもを含む市民の意見を反映し、より良いものにしなければなりません。

どのような施設ができるか

東青梅1丁目のケミコン跡地に、市民ホールや大型児童センターや貸会議室などの市の施設や、税務署やハローワークなどの国の施設が建設される予定です。また、余剰スペースがあれば民間施設も誘致するとしています。

計画の遅れ

当初2024年にオープン予定だったものが2027年になり、そして前回の6月定例議会では2033年4月にオープンという計画変更が委員会に示されました。スピード感をもって進めることを求めました。



設置前

反射鏡の設置

野上町1丁目
反射鏡のポールが腐食により折れたので
今度は電柱に設置してもらいました。



設置後

